

2018年度

ホーチミンでの日本語教師ボランティア その1
(学校の概要)

土曜教室 小林 保

2018年10月30日、ベトナム・ホーチミンに来ました。2019年1月27日まで技能実習生の送出し機関：ITM (Information Technology Manpower Joint Stock Company) で来日する技能実習生に日本語を教えます。ベトナムでの活動は今回4回目でホーチミンは3回目です。主に4区にあるITMの第1センターで教え、時々、第1センターから30km離れた第2センターにも行きます。

第1センターは実習生約200名(男性：約110名、女性：約90名)、ベトナム人の先生は14名(男性：5名、女性：8名)、日本人は私と常勤の女性先生の計2名です。その他に事務職員など14名程います。ベトナム人先生の内、男性1名、女性1名は大学生で、月に1回程、大学に行くことがありますが、殆ど大学に行っていないようです。ベトナムの大学では4年生になれば、これで良いのかも知れないですね。

第2センターは実習生約30名(男性：15名、女性15名)、ベトナム人先生は女性2名、職員は1名で、常勤の日本人先生が週1回だけ行きます。かなり小規模な学校です。



ITM 第1センター

(2階は事務所と女子寮、3階は教室と男子寮、食堂は1階)



ITM 第2センター

(2階は事務所と教室と女子寮、3階は男子寮、)

ベトナム人先生の殆どは20歳代で実習生とほぼ同じ年齢の人が多です。大学で日本語を勉強した人と技能実習生として日本に滞在経験のある人の何れかで、ほぼ半々の割合です。日本語教師の日本語のレベルはN3、N2程度で、決して高くありません。事務職員の半数程は、大学又は専門学校で日本語を学び日本語が堪能な人もいます。

ベトナム人では日本語教師は人気のある職業の内の1つで、採用のためのトライアルに若者がよく学校に来ます。3~4日の模擬授業とペーパーテストを受け、採用されると2ヶ

月間の試用期間となります。試用期間が終われば正規採用です。合格率は20%程度で意外と狭き門です。日本と違い、離職率が高いため、学校側としては常時職員や教師の補充が必要なようです。

近年、日本の実習生受入機関（組合）に出向する日本語教師、職員が多いです。期間は3ヶ月、半年、5年といろいろです。ベトナム人実習生が増えたことで、失踪する者、犯罪を犯す者等の問題が増加し、それらに対応するためベトナム語の分かる職員が必要です。出向する職員にとって異国で仕事をするのは本当に大変なことだと思います。習慣や文化が異なり、ベトナム人と日本人に考え方に違いがあるためストレスの多い仕事の筈です。

授業は8:15~16:00で、午前4コマで、午後は13:00から3コマです。1コマ45分、休憩15分で私は1日当たり4~5コマ程教えます。語彙の導入、文法等はベトナム人先生が担当し、私はもっぱら会話です。テキストは“みんなの日本語”を使用し、各章の文頭に出てくる文型を使っての自由会話と練習B,Cの文を流用しての質問、回答がメインです。ITMに入校した時期毎にクラス分けをし、1クラス当たりの実習生は15~25名です。出国までの期間は日本の会社から希望で決まり、4ヶ月から8ヶ月が多いです。一部の実習生は既に日本語を学んだ人もおり、レベルにはかなり個人差があります。中には驚くほどに進捗が早い人もいます。

その他、下記も担当しています。

- (1) 会話進捗度会話テスト
- (2) 実習生の書いた会社名、組合名、住所の漢字の読み方チェック
- (3) ITM職員が書いた教育報告書の日本語チェックと訂正



ITMの事務所

アパートの近くにITMの事務所があり、そこで一般社会人向けの日本語コースが開設され、アルバイトで夜3回程、教えました。1回当たり2時間×500円/時間でした。

ベトナム人教師の給料は4~5万円程度ですので、相場はこの程度かと思います。